

カンボジア再訪

国際問題研究家 小川 秀樹

日本をたつ前、AMDA 対象に手術室を一階に新設 (アジア医師連絡協議会、本部岡山市) のカンボジアでは何人もの患者が順番を待っており、各診察室で三人の医師たちが診察を行っていたので、ポンペンと病室を準備中らしい。三階には事務室があり、男女二人の職員が仕事に取り組んでいた。

先生はいかにもカンボジア人という小柄で華奢(きしゃしゃ)な体つき。ポンペンで医学教育を修めた後、フランスに留学しさらに公衆衛生を研究した。当然フランス語はうまいが、英語もできる。

病院は三階建てのきれいな建物で、聞けば岡山の企業の支援で昨年末修復が終わった建物に移ったばかり。近々、地雷被害者を主

岡山の本部から「選挙前後の混乱に備えて備蓄を行うよ

AMDAクリニク

の指令が来ているの誘い。ポンペン滞在中、最終日の午前中に出かけた。私自身の見通しを聞かれたが、個人的には何

修復終え施設充実

車内で選挙の結果についてあれこれ話し合う。「人民党が負けた場合は政権移譲に際して混乱が起る」と



たのに対し、先生はまだ完全に安心している様子には見えなかった。

一時間半でプロジェクトが行われている高原の小さい村に着く。はじめにライケア・センターを見に行く。柵(さく)が

ポンペン市内のAMDAクリニク。完成したばかりで真新しい

してあるセンターの敷地内で子供たちが遊んでいる。親が農作業などに出かけている家の子供たちが四十人ほど今日は来ていた。中心にある木を組んだだけの建物は教室で、クメール語のアルファベットなどを教える場になった。

その一部が食事を作ったりする作業室。クメールの掲示があり、患者搬送用の車両、備品などにもAMDAからの寄付と表示がなされていた。